

【生活トレンド研究所レポート 2015 vol.2】

「20～40代の恋愛・結婚・家庭観」に関する調査を実施②

(4) 20代独身女性の半数近くが「授かり婚」にネガティブな反応 一方で30代独身女性は3人に1人が「いいと思う」と回答

最後に、妊娠をきっかけに結婚するいわゆる「授かり婚」についての意識を全員に対して聞いたところ、独身者の3割が「特に何とも思わない」と回答している一方で20代の独身女性の45.5%が「結婚・入籍を済ませてからのほうがいいと思う」と考えていることがわかりました。

既婚者については、20代男性以外は4割以上が「結婚・入籍を済ませてからのほうがいいと思う」と回答していましたが、全年代・性別において「おめでたいことには変わらないのでいいと思う」が10ポイント程度上回る結果となりました（グラフ7、8）

この結果について、各専門家は次のようにコメントしています。

➤ All About「恋愛」ガイド 相沢あい氏

独身者よりも既婚者のほうが「特に何とも思わない」が男女どの世代でも10%前後少なく、既婚者にとつての「子供」は興味がある対象であることがわかると同時に、独身者にとって他人の「子供」がどう生まれようと特に何も思わず、「子供」というものがリアルではないことがわかりました。**5割弱もの20代独身女性が「授かり婚はしたくない」と回答しており、筋道立てた結婚を望む一方、30代独身女性になると約3割まで減少しており、「授かり婚でも結婚のきっかけになれば」という意識がうかがえます。**これは、女性の出産のタイムリミットやリスクとも大きく関係しており、「生めるチャンスに生んだほうが良い」という気持ちの表れなのではないでしょうか。独身者の中でも、男女共に積極層<漠然層<消極層と、授かり婚について「特に何とも思わない」が増えており、恋愛に対して興味を示さない層は、子供についても興味を示さないことがわかりました。

➤ All About「子育て」ガイド 河崎環氏

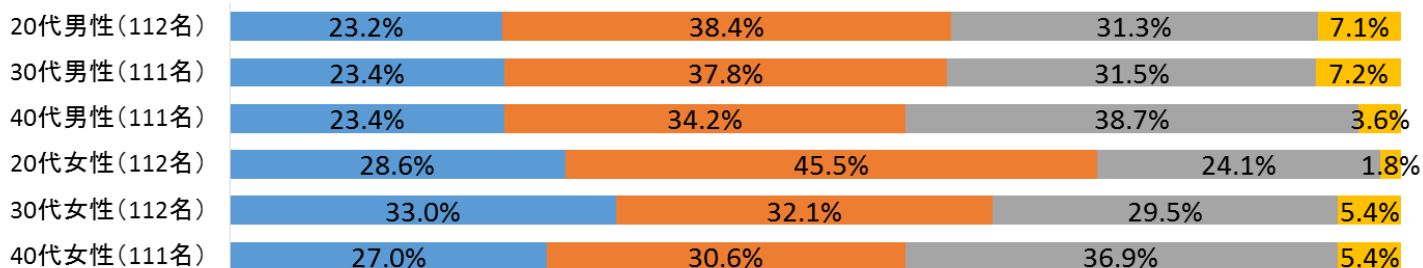
授かり婚を肯定的に捉える20代や30代女性に比べ、40代女性からはシビアな視線を感じる結果となりました。20代女性の場合は、自分たちや周囲のケースに授かり婚があり得る、そして実際にそれで結婚に至るケースがあるという経験から、当事者意識を持って「授かり婚はアリ」としているのでしょう。30代女性の場合は、まさに授かり婚でもなければと結婚へと踏み切れない迷いの多い状況から、授かり婚に「背中を押す」役割を見ているのかもしれませんが。40代女性の、授かり婚に否定的で冷静な視線は、いろいろなケースを見てきたがゆえの結論であるとも言えます。特に40代後半に否定的な人が多いのを見ると、世代として考えが新しいとか古いとかいうのではなく、ひょっとするともう自分は出産というステージを降りるがゆえに、そのような動機による結婚を客観視できているのかもしれませんが。自分のこととしてではなく、例えば自分の子供が授かり婚をすることになったら、どう考えるか。**様々なことを経験してきた年代の女性による視線は、授かり婚が（少なくとも著名人の世界では）すっかり市民権を得たかのように見える現代に、興味深い示唆を与えてくれます。**

➤ All About「子育て・夫婦関係」ガイド おおたとしまさ氏

20代女性は順番を気にしていますが、独身男性の6割は授かり婚への抵抗感がないようです。独身女性の場合、20代では45.5%が授かり婚への抵抗感を示していますが、30代・40代ではそれが約3割に減っています。20代のうちは、結婚→出産という順番にこだわる女性が多いですが、30代・40代になるとそれが減るようです。

グラフ7:「授かり婚」に対する意識(独身者)

■ おめでたいことには変わらないのでいいと思う ■ やはり結婚・入籍を済ませてからのほうがいいと思う
 ■ 特に何とも思わない ■ その他



グラフ8:「授かり婚」に対する意識(既婚者)

■ おめでたいことには変わらないのでいいと思う ■ やはり結婚・入籍を済ませてからのほうがいいと思う
 ■ 特に何とも思わない ■ その他

